

くのへ

議会だより

Vol.234

令和6年7月30日
発行

「黒山の昔穴遺跡」

国史跡指定へ

文化審議会が
文部科学大臣へ答申
(関連記事5頁)

ふるさとの
自然に感謝を込めて

カタクリの種

黒山にカタクリ植栽!

(江刺家小学校/最後の遺跡環境保全活動)

令和6年第2回定例会

もくじ ● CONTENTS

大久保新村長が所信を表明……………2

村議会議員行政視察調査の報告……………6

第2回臨時会/通学の足維持に419万円など……………10

村政を問う・一般質問に3人が登壇……………12

小さな太陽・明日をひらく子どもたち《長興寺小学校》……16

大久保新村長が 所信を表明

「対話と信頼・納得と共感」の村政を進めたい。



一般質問に3人が登壇

スタートした大久保村政。
具体的な村政運営の方法、施策に
質問が集中

令和6年第2回定例会は、6月10日から14日までの5日間の会期で開かれました。初日の本会議では、大久保勝彦新村長の所信表明演説が行われました。提出議案は人事1件、補正予算2件で、全て全会一致で原案のとおり同意・可決されました。また、任期を迎える選挙管理委員の選挙が行われ、一般質問では3人が登壇し、新村長の村政運営などをたずねました。

令

和6年第2回定例会は、大久保新村長が村長に就任して初めての定例会となったことから、議会初日の本会議で所信表明演説が行われ、これからの村政運営の基本方針が明らかにされました。

所信表明演説で村長は、「総合発展計画を基本としながらも『対話と信頼・納得と共感』の政治姿勢の下、村民の声を丁寧に聴きながら、三現主義の徹底と実行力をもって、掲げた四つの公約実現（3掲掲）に向けて取り組みたい」とし、「これまで本村で行われてきた良い制度はさらに充実させ、足りないところ、見直しをすべきところは大胆に見直しをし、全ての村民が九戸村で暮らしてよかったと思える村、夢と希望のある暮らしに作り取り組む」と決意を示しました。

これを受けて13日に行われた一般質問では、スタートした大久保村長の具体的な村政への取組姿勢や施策、来年度に統合・新設される九戸小学校の準備状況などに質問が集中しました。（一般質問を12ページから掲載）

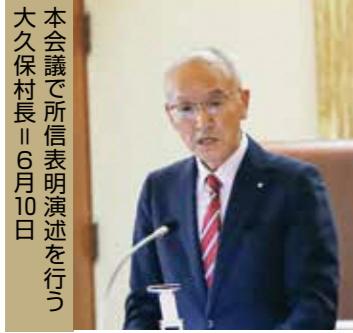
人事 固定資産委員に 漆原さんを選任



うしろ けんじ
漆原 賢治さん

固定資産評価審査委員会の委員に漆原賢治さん（63歳・山屋）を選任することに同意しました。任期は、令和9年8月4日までの3年間です。同委員会は、固定資産課税台帳登録事項に関する不服の審査などを行います。

大久保村長(公約) 四つの重点施策



本会議で所信表明演説を行う
大久保村長 6月10日

1 「福祉の里づくり構想を進め、村民の暮らしを守るとともに、保健・福祉・医療の充実」を進めます。

- ①九戸地域診療センターの機能充実②歯科診療の誘致・確保③村内介護サービス事業者等との連携による介護職員の確保・育成④ボランティアへの助成・育成と連携等⑤保育園の環境整備と子育て支援

2 「教育・文化・スポーツの振興と若者が定着できる教育環境の整備」を進めます。

- ①令和7年度の村内小学校統合に向けた取組②小学校統合後の小中一貫校または義務教育学校の設置構想③地元農産物使用など学校給食の充実④保育サービスの充実、仕事と子育て両立の支援⑤村公民館と支所機能の充実、村民憲章推進運動、社会教育・生涯学習の振興⑥スポーツ振興と体育施設の整備・利用促進⑦文化財保護、伝統文化継承、文化・芸術の発展

3 「基幹産業である農林業の振興と商工業などの地元経済の振興」を進めます。

- ①食料自給率向上対策と農業振興策②農業後継者、担い手確保など後継者支援対策③農地保全管理や農業生産施設の共同施設管理の受け皿づくり④商工会等と連携した村中心部の整備と賑わいの創出⑤村の公共工事をできるだけ村内業者に発注⑥第1次産業に関連した農村型企業誘致と若者の地元雇用

4 「安心して暮らせる地域づくり・地震や災害に備えた各方面での対策」を進めます。

- ①消防団の機能の充実と村民の防災意識向上②災害ボランティアの養成③防災・防犯・交通安全対策

※ 上記は、大久保村長が所信表明演説で示した四つの公約の項目です。所信表明演説全文は、村ホームページ掲載の村議会会議録をご覧ください。

議員は何をしているの？

議員や議会は何をしているの？という声を聞きます。
ここでは、議会や議員の主な活動状況をお知らせします。

- 4月**
- 16日 北部地区町村議会議長会通常総会 ～17日
 - 24日 議会運営委員会
村議会議員全員協議会
- 5月**
- 9日 議会広報常任委員会
 - 20日 カシオペア連邦議会議員協議会役員会
 - 21日 全国町村議会議長会研修会 ～22日
 - 23日 令和6年第2回臨時会 本会議(議案審議)
 - 27日 二戸地区広域行政事務組合議会臨時会
 - 28日 九戸村村政調査会
議会広報常任委員会
 - 31日 岩手県町村議会議員研修会
- 6月**
- 3日 議会運営委員会
 - 10日 令和6年第2回定例会 本会議
(開会、村長所信表明演述、議案上程)
各常任委員会、議員全員協議会、九戸村村政調査会
 - 13日 令和6年第2回定例会 本会議(一般質問)
産業民生常任委員会
 - 14日 令和6年第2回定例会 本会議(議案審議、閉会)
 - 25日 九戸村村政調査会



総会を開いて令和6年度の事業計画などを決定
=4月16日、北部地区町村議会議長会



村政調査会において「黒山の昔穴遺跡」の国
史跡指定などについて情報提供を受ける議員
=6月25日

商工振興、小学校統合準備など 一般会計予算に1億6730万円追加

令和6年度会計

第2回定例会で可決された一般会計補正予算(第2号)は、予算総額に1億6730万6000円を追加し、49億9589万7000円とするものです。歳入の内訳は、令和5年度繰越金など一般財源が8888万5000円、国県支出金7522万8000円、村債290万円などとなっています。

▶一般会計補正予算の歳出では、地方創生臨時交付金を財源とする定額減税補足給付金と低所得世帯等支援給付金、一般財源では九戸村商工会が実施する各種消費喚起事業への補助金、来年4月に開校する九戸小学校の校舎として使用する伊保内小学校の教室改修やエアコン設置費用などが追加されました。

一般財源とは

一般財源とは、村税や地方交付税などのように、用途が特定されていない財源をいいます。

— 令和5年度繰越明許費繰越計算書の報告 —
繰越明許費について、令和6年度に繰り越された実際の経費の報告が、次のとおりありました。

事業名	繰越額
電話システム改修事業	60万円
窓口環境改善事業	70万円
デマンド交通運行事業	1682万円
戸籍情報システム等改修事業	1027万円
農道改良事業	1210万円
道路維持修繕事業	8845万円
公共土木施設災害復旧事業	2億9771万円

—追加された主な歳出予算—

- ・定額減税補足給付金 …… 5400万円
- ・低所得世帯等支援給付金 …… 1750万円
- ・伊保内小学校整備事業 …… 1368万円
- ・村マイクロバス購入費 …… 1139万円
- ・商工業振興対策基金積立金 …… 1000万円
- ・プレミアム商品券事業補助金 …… 300万円
- ・プレミアム付食券事業補助金 …… 200万円
- ・消費喚起事業補助金 …… 300万円
- ・ふれあい広場遊具更新 …… 567万円
- ・甘茶工場乾燥機更新 …… 317万円
- ・農業生産基盤整備事業補助金 …… 132万円
- ・給食施設運営業務委託料増額 …… 165万円

▶**戸田財産区特別会計補正予算(第1号)**
予算総額に16万6000円を追加し、593万7000円としました。内容は、財産管理用の消耗品費を増額するものです。

村政調査会

黒山の昔穴遺跡 国史跡指定へ

6月25日の村政調査会の場で、村教育委員会から本村の「黒山の昔穴遺跡」が、国の文化審議会から国史跡指定の答申を受けたと情報提供がありました。指定の官報告示は9、10月ごろのことです。

本紙表紙で紹介した江刺家小学校の活動をはじめ、多くの方々の取り組みや努力により、良好に保存されてきた宝物を後世に引き継ぐとともに、村の活性化にどう位置付けていけばよいのか、村議会としても皆さんと考えていきたいと思えます。

文化審議会 答申

常任委員の選任

上村議員 産業民生常任委員に

上村昇議員(4月14日執行の村議会議員補欠選挙で当選)の所属する常任委員会が、産業民生常任委員会に決定しました。議員は、委員会条例の規定により、一つ以上の常任委員会に所属することになっています。

議長交際費を公表

月	お祝い・会費	
	件数	金額
4月	0件	0円
5月	3件	15,000円
6月	2件	10,000円

※ 議長交際費とは、議長が議会の対外的活動を行うための経費です。

選挙 選挙管理委員会 4人を選任

7月14日で任期満了となる村選挙管理委員会の委員と同補充員の選挙が行われました。

選挙管理委員には、本堂正典さん(62歳・山根)、千葉利夫さん(77歳・伊保内上)、稲森雅夫さん(67歳・長興寺上)、七戸幸一さん(67歳・細屋)が選ばれました。選挙管理委員会は4人の委員で構成され、地方自治法の規定により、任期は、いずれも令和10年7月14日までの4年間です。

また、委員に欠員が生じた場合の補充員の選挙も行われ、下村美江子さん(補充の順位第1位)、七戸定一さん(同第2位)、三春正二さん(同第3位)、坂本浩樹さん(同第4位)が選任されました。

り、村議会の議員による選挙で選ばれます。



海士町の菱浦港の前で

九戸村議会議員行政視察調査

—地域の課題解決と魅力づくりを学ぶ—

九戸村議会では、「全国的に少子高齢化を背景とした人口減少社会が急速に進行する中、自立に向けたまちづくり、地場産業地域ブランドの振興、移住定住支援策など直面する諸課題に対し、解決に向けた取り組みと地域の魅力化づくりをどう進めようとしているのか」をテーマとし、7月に視察調査（議員10人参加）を行いました。

視察先は、先進的施策で全国的に注目を集めている3市町。それぞれの自治体がつつ地域資源の活用や課題解決に向けた取り組みなど、現場で直接かかわっている関係者から直接お話を伺うことができ、大変有意義な研修となりました。

今回の視察で感じたことは、どの自治体も移住定住対策に積極的に取り組み、着実に成果を挙げていること。また、地域資源や特性を生かしたまちづくりを進めていることです。学び得た優良事例を今後の村づくりを生かしていきたいと考えています。その内容を村民の皆さまにお知らせします。



視察先のデータ

区分	海士町	琴浦町	雲南市	
まちづくりの特色	「自立促進プラン」による行政コストカット 「島まるごとブランド化」を目指したまちづくり	2024年版住みたい田舎ベストランキング2年連続1位	小規模多機能自治のフロントランナー	
視察の調査事項	自立のまちづくり 地場産業・地域ブランドの振興 隠岐島前高校の生徒確保の取り組み	子育て支援 空き家対策 移住者支援	小規模多機能自治の取組み 移住・定住対策	
市町村の概要	人口(住基)	2,233人(4月末)	16,006人(4月末)	34,772人(4月末)
	世帯数	1,295世帯(4月末)	6,496世帯(4月末)	13,583世帯(4月末)
	面積	33.43km ²	139.97km ²	553.18km ²
	一般会計予算(6年度当初)	100億円	125億2,600万円	329億3,000万円
	うち議会費	5,175万円	1億831万円	1億8,700万円
議員定数	10人	16人	19人	
現議員数	男8人・女2人	男15人・女1人	男15人・女2人	

島根県

海士町

あまちよう

離島からの守りと攻めの挑戦

●人口減少と財政難

昭和25年に約7000人の人口は、平成27年10月の国勢調査では2353人。高齢化率は40%を超え、高校卒業後はほとんどが島から離れ、出生数も10人前後と人口減少に歯止めがかからない。また、公共事業頼みのまちづくりを進めてきた結果、財政力以上に地方債(借金)残高が膨らみ、ピークの平成13年度末で101.5億円に及んだ。

●離島の果敢な挑戦

日本海の隠岐諸島に位置する小さな島「海士町」は、

本土から遠く離れた、離島のハンデキャップから、「超過疎、超少子高齢化、超財政悪化」に。ここから自らの生き残りをかけて、果敢な挑戦が始まった。

平成16年3月「海士町自立促進プラン」を策定。まず財政再建の「守り」と町発展のための産業振興の「攻め」の両面からアプローチした。

●生き残りの「守り」

「自らの身を削らない改革は支持されない」という町長の信念の下、大幅な給与カットを断行。町三役の給与50%カット、職員給与30%

●住民たちに変化が

住民から「職員が頑張っているから、老人のバス料金半額を一般並みに」「コミュニティ活動への補助金は要らない」などの声が出始めた。行政改革や地域づくりを応援したいと寄附も届けられるようになる。

●産業振興の「攻め」

島が生き残るため、産業振興策を展開。「攻め」とは、地域資源を生かし、第一次産業

の再生で島に産業を作り、島に人(雇用の場)を増やし、外貨を獲得して、島を活性化することである。まずは「現場第一主義」に組織を再編、ニーズを肌で感じ、その声を地域づくりに生かすためだ。

「島民の誇り「海」」
第一弾は島の食文化を商品化した「島じゃ常識! さざえカレー」が登場。年間約3万個を販売するヒット商品に。第二弾は「隠岐海士のいわがき・春香」。Uターンと地元漁師が協力し季節限定の商品として、販路を拡大した。第三弾は海士の漁師の食卓をそのまま届ける「CAS (=Cells Alive Systemの略) システム」。豊富な海産物に磁場をかけて振動させることで、細胞組織を壊すことな

く凍結させることができ、長期間にわたって鮮度の保持を可能とした。

「島民の誇り「海」」
牛を放牧している牧草地には年中、ミネラル豊富な塩分を含んだ潮風が吹き上がっている。それを取り込む隠岐・海士の牛はおいしく、病気にも強いと言われる。公共事業の減少から建設業者が「有限会社隠岐潮風ファーム」を設立し農業に参入、精力的に勉強を重ねた。その結果、繁殖から肥育まで島内で飼育された「島生まれ、島育ち、隠岐牛」のブランド化に成功した。

●ないものはない!

海士町のロゴマーク「ないものはない」の文字には「なくてよい。大切なものはすべてここにある。なければ作ればいい」というメッセージが込められている。魅力的なまちづくりは全国の注目を集め、平成16年から令和3年11月末の18年間で移住者は873人、人口の約18%を占めており、町の人口は増加に転じた。

●高校入学者の確保

海士町にある島根県立隠岐島前高校は、少子化の影響を受け、平成9年の77人の入学者が平成20年には1クラスの28人まで激減。統廃合の危機を乗り越えるべく、高校の魅力化を図った。難関大学にも進学できる「特別進学



島の現場スタッフとの対話

町政の経営指針「自立・挑戦・交流×継承・団結」の下、魅力あふれる町づくりが進められている。

ここに注目!!

海士町は、地域資源を生かした産業創りと若者を気軽に受け入れ、定住できる取り組みをしていた。村でも多品目の農産物や美しい自然を生かして、移住人口増につなげたいと思いました。



久保えみ子 議員

視察を対応したのは、若者達で作る会社で、町の広報、企画を行い自由な発想を取り上げてもらい、仕事ができること。トップダウンだけでなく多くの話や発想を取り上げることが、村政に必要なと感じた。



渡 保男 議員

視察先が海士町に決まった後、偶然にもNHKの新プロジェクトX破綻寸前からの総力戦と題した番組を見てすばらしい町だと思った。「百聞は一見に如かず」自治の原点を見た。



坂本 豊彦 議員

「自分たちの島は自分たちで守る」という気概で、住民・行政・議会が危機意識を共有し、行財政改革を進めており、学ぶべき点が多々あった。今後の村づくりに生かしていきたい。



桂川 俊明 議長

鳥取県

住みたい田舎ランキング2年連続1位
琴浦町 ことらちゅう

雑誌「田舎暮らしの本」掲載の「2024年版住みたい田舎ベストランキング」2年連続全国1位(人口1万人以上のまちの部)を受賞。部門ごとに「子育て世代」「シニア世代」が第1位、「若者世代」が第2位である。

住人口はコロナ禍前後で14.9%増(R2↓R4)など。

●農業や漁業が元氣

海と山に囲まれ、自然や歴史、観光資源が豊富な町である。ゆえに農業、酪農、漁業が盛んで、農業産出額13億円ほどで全国1719市町村中173位、本村の1.5倍の産出額となっている。加えて、製造業や建設業も多いことから、移住者の働く場所も見つけやすい産業構造となっている。

●移住窓口を一本化

総務課や企画政策課、税務課が所管していた支援策を、令和5年度から企画政策課へ一本化を図り、移住者や住民から分かりやすいように組織を再編。窓口を統一することにより手続きの利便性や効率性が向上、補助制度も大きく見直した。

※ 住みたい田舎ベストランキング「魅力的な移住先」を探るべく、全国の市町村を対象に、編集部独自のアンケートを実施。人口規模、世代、エリアなどの切り口でランキングを集計し、多くの市町村の魅力や伝えるもの。毎年、移住先を検討する上でのトリガー(きっかけ)として注目されるとともに、ネット、テレビ、新聞などで紹介され、大きな反響がある。2024年は、全国587市町村が参加。

●移住者特徴に変化

田舎ベストランキング掲載以前は、「高校卒業を機に進学や就職等ほとんどが近畿地方や中四国地方へ移住」「定年退職された方が出身地の琴浦町へUターン」が多かったが、掲載以後は「若者20代」の移住者が全体

の80%ほどに増加、「Uターンの増加」「近隣地方だけでなく、関東方面の移住者の増加」と変化がみられるようになった。

●内覧可空き家ナビ

また、移住データの分析、ニーズを把握し、新規移住者の獲得と流出防止に特化した補助金を開始。移住体験施設「おためし住宅(最長1カ月)」も完備している。

また、町全体の空き家ナビには、町全体の空き家

6町村による新設合併で誕生。1970年代に5万人を超えていた人口は現在では3万5千人を割り込む。人口減少と少子高齢化は今後も続く見込みで、高齢化率約40.1%(令和2年)は、全国平均より20年は先んじているとのこと。

ここに注目!!



上村 昇 議員

鳥取県琴浦町の移住定住政策では、若者移住者を積極的に受け入れ、地域の活性化を図っている。住宅支援やイベントの開催など魅力的な環境を整備し、人口対策を推進している。



岩淵 智幸 議員

移住者に対して、行政、企業が一体となり住居、仕事、子育て等の支援を充実させることにより若者の移住が増え、人口増加、空き家の減少に繋がっていることが参考になりました。



保大木信子 議員

琴浦町では、地域の担い手不足の深刻化に伴い、地域と多様に関わる「関係人口」の創出が効果的と考え、その取り組みに力を入れている。村でもぜひ関係人口の創出をもっと進めていきたい。

728件中194件が登録、その約75%に当たる145件が成約している。空き家ナビには360度カメラを導入し、外観はもちろん、オンライン内覧を実現。空き家の各部屋、庭などが画面上で細かく見ることが出来る。

また、オンラインでの相談にも対応している。

また、ICT環境の整備や、地域人材を生かし、子育てを支援できる人と支援を受けたい人をつなぐ「ファミリーサポート」事業など、地域での子育て支援を推進し、妊娠前から子どもの高校卒業や就職時までの切れ目のないサポートを行っている。

●子育て支援も充実
琴浦町は、子育て世帯の共働き率が高いことから、保護者が安心して働けるよう、こども園・保育園、小学校区ごとに放課後児童クラブを開設。世帯の第2子以降の保育料・副食費を無償化し、子育て世帯の経済的負担を軽減、乳幼児期の家庭保育の希望をかなえるための給付金を支給している。

●惑星コトウラとは
若手役場職員による他課連携のプロジェクトチーム。有志で結成され、柔軟なアイデアで、情報発信やさまざまな企画、チャレンジを行っている。



琴浦町役場での研修風景

島根県

小規模多機能自治フロントランナー
雲南市 うんなんし

●小規模多機能自治

自治会や町内会だけでなく地域内のさまざまな団体等がまとまり、自主的・自律的・包括的に地域課題の解決を行う小規模多機能自治。これを担うのが地域自



積極的に情報交換を行う議員

●自治体役割に限界

雲南市は、地域自治のフロントランナーとして全国の注目を浴びている。

雲南市は平成16年11月、

人口減少と少子高齢化の進展は、公共サービスの維持を難しくする上、合併により、住民にとって行政が物理的に遠くなることも、行政側もこれまでの

ような一律公平な運営だけでは住民ニーズに答えられない。

●地域円卓会議方式

平成25年度から本格スタートした地域円卓会議。防災、地域福祉、生涯学習、社会教育といった分野別に、市の職員、議員、各地域自主組織の担当部門スタッフが集まり、意見交換を行う。「参加人数は話しやすい規模」「行政と住民が対等」「原則公開」などがルール。市は、会議で出された意見をできるだけ施策に反映するよう努める。

を配置。過去8年分の実績は、相談件数4070件で定住人数は1530人である。空き家登録件数519件で、成約数は約263件。平成23年に空き家バンクが本格的に開始、雲南不動産協力会(仲介業者13社)が、市と連携し相談対応や現地案内を行う。

雲南市の小規模多機能自治の町づくり行政支援の事務局体制充実を図り、交流センターを拠点に市民と議会、行政が協働の町づくりを進め、地域課題解決に取り組むため、地域円卓会議を開催している。

市は財政支援として「地域づくり活動等交付金」を交付。人口や高齢化率、面積などを勘案して配分額を決め、平均1地域自主組織当たり年間1千万円程度の中から、職員の人件費も支払われている。

●移住定住への取組
定住支援スタッフ制度を設け、総合窓口として定住企画員及び定住推進員

定住情報サイト「ほっこり雲南」を立ち上げ、子育て世代をターゲットに情報発信。また、市民アンケートで出された「子連れオフィス」を開所、子育てと仕事の両立に向けた支援を行う。

ここに注目!!

移住定住スタッフ3名が専属で対応している、オーダーメイド型の体験プログラムを提供し、各補助金制度を複合的に組み合わせ、多方面から充実した対応しているところが素晴らしいと思います。



大崎 優一 議員

お節介でやさしいまち雲南市は、地域自主組織によるまちづくりに取り組み、人口の社会増への挑戦を続けていた。一人ひとりの力を発揮させるため、「一世帯一票ではなく一人が一票、参加だけでなく参画」の考え方が特徴。

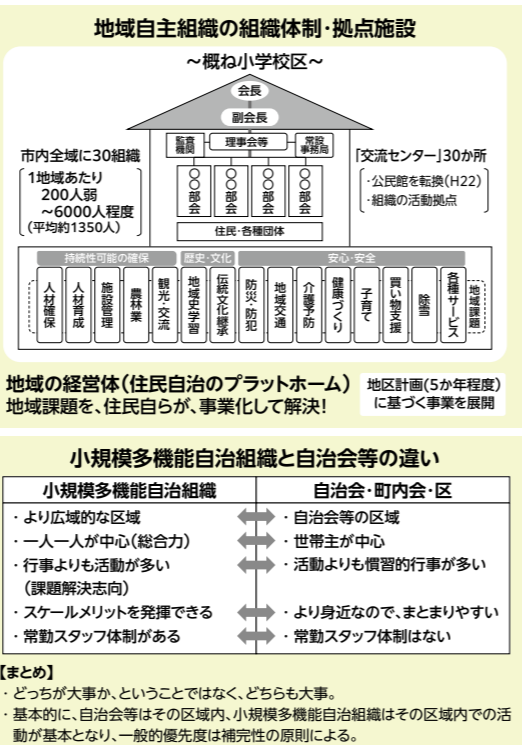


川戸 茂男 議員

雲南市の小規模多機能自治の町づくり行政支援の事務局体制充実を図り、交流センターを拠点に市民と議会、行政が協働の町づくりを進め、地域課題解決に取り組むため、地域円卓会議を開催している。



古館 厳 議員



令和5年度予算の補正

専決処分した予算	補正額	補正後の総額
一般会計補正予算(第10号)	△1億4321万円	49億8000万円
国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	△2249万円	6億5909万円
後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	△81万円	7326万円
索道事業特別会計補正予算(第2号)	△572万円	1106万円
伊保内財産区特別会計補正予算(第3号)	1220万円	1971万円

本来は議会が議決しなければならない事件を、例外的に村長が議会の代わりに意思決定することです。専決処分には次の2種類があり、議会への報告が必要で、①の場合は、併せて議会の承認が必要となります。

- ① 時間的に議会の招集を待てない緊急の場合など
- ② あらかじめ議決により指定(委任)している事件

専決処分とは



専決処分の報告

補正予算のうち伊保内財産区特別会計につ

補正予算5件・条例5件

承認

専決処分を行った令和5年度補正予算5件と条例の一部改正5件が議会に報告され、全て承認されました。内財産区特別会計については、立木の売却収入1220万円を財産管理資金に積み立てるものです。他の四つの会計は、いずれも事業費確定などにより予算を減額するものです。



第2回臨時会は5月23日に開かれ、村長から提出のあった専決処分の報告10件、議決事件2件、補正予算2件を審議。全ての議案を、全会一致で原案のとおり承認・可決しました。

第2回臨時会 こんなことが決まりました。

一般会計 予算

総額1億1416万円を追加 二戸九戸線最終便のバス運行に419万円など

第2回臨時会では、令和6年度一般会計予算に1億1416万7000円を追加し、総額を48億2859万1000円としました。併せて、地方債の補正が行われました。歳出では、通学生徒輸送業務委託料419万円が措置されました。これは利用者の減少などから、乗合バス「二戸九戸線最終便(往復)」を5月末で廃止する意向がバス事業者から示されたことから、村が通学の足となっている同便の運行業務を委託して維持するものです。



通学にバスを利用している伊保内高校の(左から)長山璃琉さん、欠端永遠さん、佐藤真宏さん

令和6年度一般会計補正予算(第1号)

- ・追加された主な歳出予算・
- ・ 上水道安全対策(宇堂口水源膜ろ過設置)事業 出資金 8920万円
 - ・ 新型コロナワクチン接種費補助金等返還金 1731万円
 - ・ 通学生徒輸送業務委託料 419万円
 - ・ 地域みらい留学宿舍利用料 159万円

※ 歳入の内訳は、国県支出金が94万6000円、地方債8920万円、財政調整基金の取り崩しが2402万1000円となっています。

水道事業 膜ろ過工事を2291万円増額

宇堂口水源の膜ろ過設置工事費の増額により資本的支出の予定額に2291万3000円を追加し、総額3億1416万2000円とするものです。収入については、同工事の財源として企業債の利用を予定していたものを、一般会計出資金に変更するものです。

Q 当初予算では、企業債を予定していた。出資金に変更したのは、借入れが認められなかったからなのか。
A 企業債では全額の償還となるが、水道事業会計に出資を行うため一般会計で出資を借りた場合には、元利償還金の一部が地方交付税措置される。村全体の財政で考えた場合、出資を借りて、出資してもらおう方法が有利だと判断したことによるものだ。



川向集落施設の新築工事 7920万円で請負契約

川向集落施設の新築工事を株式会社丹野組(二戸市)と7920万円で請負契約することとを議決しました。同施設は、木造平屋建て・延床面積252.21平方メートルで、川向行政区のコミュニティ

イー機能の強化などを目的に建築されます。

▼損害賠償請求事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることの議決
損害賠償請求事件について、和解することと損害賠償の額を議決しました。

・ 損害賠償の額 2万2440円

・ 事件の概要 村道舗装面にあった陥没の上を走行したことに伴うタイヤのパンク。



地方税法等の改正で

次の条例3件は、地方税法などの改正が令和6年3月30日に公布され、同年4月1日に施行されることから、専決処分により所要の整備を行ったものです。

▼九戸村税条例の一部を改正する条例
定額減税の実施、村民税や固定資産税などの職権による減免を可

能とする規定の追加などをを行うものです。

▼九戸村国民健康保険税条例の一部を改正する条例
後期高齢者支援金等分の課税限度額を2万円引き上げることなどを定めるものです。今回の改正により、国民健康保険税の課税限度額

は、2万円増の106万円となりました。

▼過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例
この条例による課税免除適用期間を、3年間延長するものです。

水道法改正で
厚生労働省が所管していた水道行政を、国

土交通省と環境省に移管する法律が施行されることに伴い次の条例2件について、所要の整備を行ったものです。

▼九戸村水道事業給水条例の一部を改正する条例
九戸村布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例



「対話と信頼・納得と共感」の村政 具体的にどう運営するのか

村長 ▶ 村民の声を聴く機会を積極的に設け 村民目線で村政を推進したい

具体的には、村民の声を聴く機会を積極的に設け、村民の目線で、村民に寄り添った村政

村長 村民感覚を忘れることなく、温かい村政運営に努めたい。そして、総合発展計画を基本としながらも、三現主義(▽現場に足を運び、その場を確認する▽現場で手に取り、その物を確認する▽現場をこの目で見て、その事実を知る)を徹底し、村政課題に

固 大久保新村長は、「対話と信頼・納得と共感」の村政を進めるとして当選された。具体的に、どのような考え方で、どのように村政を運営するのか。また、村長は「福祉の里づくり構想」など、四つの選挙公約(関連記事3ページ)を掲げている。どこに力を入れて、村政を進める考えか。

教育長 九戸小学校の児童数は、伊保内小学校の約2倍となり、保護者の数も増えることになるが、大きな学校行事は年間に数回程度

九戸小の駐車場整備 九戸小学校が来年4月、村内五つの小学校を統合して開校される。校舎は、現在の伊保内小学校が使用されるが、児童だけでなく保護者の数も増えることから、学校行事などに備えて駐車場の整備が必要ではないか。また、グラウンドに設置されている相撲場については、どのようにする考えなのか。

私 四つの公約は、直近の課題であり、どれも解決しなければならぬ。また、議会との対話を重視し、夢と希望のある村の実現に努めたい。

準備の状況は 九戸小学校の開校に向けた取り組み

相撲場については、老朽化が進んできていること。今後の活用が見込めないことから、児童の安全面も考慮して、撤去することが必要だと考えている。

九戸小学校の指定体操服は、複数のサンプルを各小学校と村公民館に展示し、投票によって決定される。写真は山根小学校=7月9日



九戸小学校の指定体操服は、複数のサンプルを各小学校と村公民館に展示し、投票によって決定される。写真は山根小学校=7月9日

は、どのような状況にあるか。また、現在の課題は何か。教育長 開校に向けては、おおむね予定どおり進んでおり、校歌は歌詞がほぼ決定し、9月の完成を目指している。校章はデザインの中から選定する。指定体操服は、各小学校や村公民館にサンプルを展示し、投票で決定する。校舎整備について

は、今議会に提出している補正予算案に、教室の改修費用などを盛り込んでいる。現時点での課題は二つあり、一つはスクールバス発着場の選定である。前述の相撲場撤去後の跡地も有力な選択肢と考えている。もう一つは、放課後子ども教室と児童児童クラブをどうするかということだ。ニーズ調査等を早急に行い、方向性を示したい。

※ 校章のデザインには、一般6点、児童生徒から33点の応募があった。デザインの選定は、統合準備委員会で行われる。



～村政を問う～ 一般質問に3人が登壇

令和6年第2回定例会での一般質問は6月13日に行われ、3人の議員が一般質問に登壇し、活発な議論が展開されました。掲載している内容は、紙面の都合で要約しています。 ※ 全文記録(議事録)は、村ホームページでご覧いただけます。

質問議員(質問順)	質問事項	掲載ページ
中村 國夫 議員	○村政運営について ○統合・新設小学校の環境整備について ○人口減少対策について	13
坂本 豊彦 議員	○村長の政治姿勢について ○人口減少対策について	14
久保えみ子 議員	○健全財政の堅持による新たな施策の展開について ○統合・新設小学校の教育環境について ○村民の暮らしを守る具体的な施策について	15

一般質問とは、議員が村の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについて所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。九戸村議会では、1人60分以内の制限時間で質問を行います。

次の定例会は 9月2日からの 予定です

傍聴席から

議会を傍聴しませんか!

皆さんの代表が、議会でどのような発言をしているのか。村では、どのような施策を行おうとしているのか。一度、議会を傍聴してみたいか。【お問い合わせ】 議会事務局 ☎ 43-3326 まで



九戸中学校2年生の職場体験で(左から) 東井柚仁さん、河村陽和さん、小枝愛和さん、柳下爽太さん=7月1日、議場



村民の声をどのように把握して村政に反映させていくのか

村長 ▶ 移動村長室のようなものを開き 小さな地域・人数も大事にしたい

問 村長は就任して、2カ月を迎える。この間で、どのような所感を持ったのか。

村長の基本姿勢は「対話と信頼・納得と共感」であるが、どのように村民の声を聴き、村政に反映させていくのか。具体的な考えがあれば示してほしい。

村長 村長に就任して以来、村内外の会合等にできる限り出席してきた。そのことは、活動内容や課題を知る機会、村民の声を直接聴く場となり、私自身の学びの機会となった。そして、本村は少子高齢化や人口減少をはじめとする課題が山積していることを実感し、村のありさま、地域の姿が大きく変わろうとしていること。激動の時代を迎えているという認識を深めた2カ月間でもあった。縮小社会に向かって

いく中で、むらづくりに欠かせないことは、村民の声を丁寧聴きながら、村民の思い、願いが実現される村政であると考えている。そこで、行政の情報公開を進めながら、私の方から地域に Outreach を開きたい。構想段階ではあるが、「移動村長室」のようなものを開催できればと思っている。小さな地域・人数を大事にして、村民の思い、願いを村政に反映させていきたい。



大久保村長(右)と意見交換を行うナインズファームの研修生ら(6月20日)

どう捉える推計人口の半減

問 国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計人口によれば、本村の人口は26年後、現在の半数未満(※)となる予測である。これまでも少子化や子育て支援策等を講じてきたが、村長はこの数値をどのように捉えているか。また、U戦略室のあり方は、どう考えているのか。

村長 できる限りの対策を講じてきただけに、残念な推計値だ。人口減少対策は、すぐさま結果につながるものではなく継続することが大切であり、これまでの対策を引き続き講じていきたい。また、人口減少がどう進んでいくのかを注視し、歯止めの対策を検討したい。

村政課題が山積している。課題解決と政策

問 岩手県市町村民経済計算年報によれば、本村の人口一人当たりの所得は下位に位置している。村民所得に結び付く施策の展開が期待されるが、村長は人口減少に向かう中での地域づくりを、どのように進める考えか。

問 岩手県市町村民経済計算年報によれば、本村の人口一人当たりの所得は下位に位置している。村民所得に結び付く施策の展開が期待されるが、村長は人口減少に向かう中での地域づくりを、どのように進める考えか。



村内外から多くの人たちが訪れてにぎわうオドデ館

村長 地域の特性を生かした取り組みが必要であり、村固有の自然、文化等を生かした交流人口の拡大。地域経済を循環させる地産地消に、ヒントがあると考えられる。こうしたことを村の玄関口であり、物産販売拠点でもあるオドデ館を活用しながら村民との協働で取り組むことにより、地域活性化に結び付けることが重要だと思っている。どのような、むらづくりの仕組みが望まれるのか、地域からの提案等をいただき、議会の皆さんとも相談しながら必要な対策を講じていきたい。

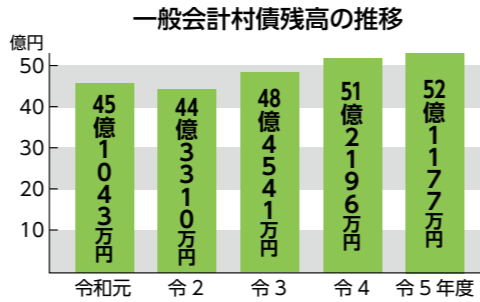
健全財政を堅持しながら暮らしを守る施策をどう進めるか

村長 ▶ 事務事業の検証で効率を高めながら 財政的に有利な制度を選択する



問 現在の円安、インフレに対処するには、金利の引き上げが避けられず、利上げを可能とする環境づくりに取り組む必要があるといわれている。

今後、予想される金利上昇による村債利払いの増加や社会課題、地域課題への対応で支出額が増えていく状況下となったとしても、村の借金を増やすことなく、村民の暮らしを守る村政を推進しなければならぬと考えるが、村長は、どのように認識しているのか。



問 現在の円安、インフレに対処するには、金利の引き上げが避けられず、利上げを可能とする環境づくりに取り組む必要があるといわれている。

今後、予想される金利上昇による村債利払いの増加や社会課題、地域課題への対応で支出額が増えていく状況下となったとしても、村の借金を増やすことなく、村民の暮らしを守る村政を推進しなければならぬと考えるが、村長は、どのように認識しているのか。

小学校統合で心配される点は

問 村内小学校の統合では、不安を抱えている子どもたちも多いと思われる。統合に当たっては、子どもたちの意見も聞きながら、安心して楽しい学校生活を送られるようにしなればならないが、統合後の教育環境などで、心配される点は何か。

教育長 学校の統合によつて、不安や精神的な疲労を感じたり、通学時間が長くなることなどで影響が出たりすることなどがあるといわれている。また、教育指



伊保内小学校を会場に行われた2年生の「ナインズ合同学習」=7月4日 [上]伊保内小学校の校舎を見学 [下]ゲームで交流を深める児童

村長 本村の主な財政指標は、概ね健全な数値を示している。しかしながら、オドデ館増改修工事や二戸消防署九戸分署の新築移転工事、令和4年8月豪雨災害復旧事業の実施で

村債発行額が増え、その償還が始まる今後の実質公債費比率(※)は、上昇する見込みである(令和4年度の同比率は7.6%)。また、日本銀行のマイナス金利政策の解除を受けて、

地方債借入先の金利も上昇傾向にある。こうした状況を踏まえて、安定的な財政運営を図りながら事務事業の必要性・効果などを検証し、事業効率を高めていく必要がある

と考える。また、村債を起す場合には、償還に財政措置が講じられる有利なものを選択することで負担を抑えながら、限られた財源・人員の中で、課題を解決していきたい。

※ 借入金返済額とこれに準じる額の程度を指標化したもの。数値が大きいほど資金繰りが厳しく、18%以上の場合、起債に総務省の許可を要する。

※ 本村の令和32年の推計人口は2550人。令和2年の5378人から39年間で、52.6%減少となる見込みが示された。(令和5年12月22日公表)

小さな太陽

=明日をひらく子どもたち=



キラキラ輝く瞳。大きな夢なら負けません。

このコーナーでは、そんな太陽のような目をした子どもたちに登場してもらいます。

皆仲良しで自然に

囲まれた九戸村

長興寺小学校 6年 大久保 星那さん

私が思う九戸村の良いところは、地域の人や学校の友達など色々な人たち、皆が仲良しだということです。困った人がいたら助け合っています。学校生活では、解けない問題を教え合ったり、遊びに誘ったりしているところなどを見ます。

九戸村は、自然に囲まれている、とてもいい村でもありません。総面積の約70%が豊かな自然です。森林が多いと、きれいな空気をいつまでも吸うことができます。そして、ホタルもたくさん生息していて、夏の夜にはとてもきれいです。

私は、未来の九戸村では、たくさんの人たちに九戸村の特産物を知ってもらったり、食べてもらったりして、各地から

観光に来る人たちが増えて、にぎやかになってほしいと思います。

これまでも、これからも、皆仲良く過ごしてほしいと思います。そして、自然豊かな九戸村を守っていききたいと思っています。人口が増えても、地域の人たち同士で助けられる九戸村にしていきたいと思っています。



保健委員長 がんばってます



長興寺小学校最後の1年を支える6年生3人組です!!

長坂郁哉さん(左)、大久保さん、荒田珠瑛さん(右)

あとがき

● 今回の定例会は、村長選挙と村議会議員補欠選挙後において、初めての議会でした。村長の所信表明演説や教育長の行政報告などが行われ、3議案について審議が行われました。

● 一般質問では、新村長の村政運営や政治姿勢、小学校の統合について質疑が交わされました。

● 村内の各小学校では、統合前最後の運動会が行われ、記念となる発表や競技で大変盛り上がりがありました。来年もみんなが協力して、盛り上げてほしいと思います。

議会広報常任委員 渡 保男

発行責任者

- 議長 桂川 俊明
- 副委員長 保大木信子
- 委員 渡 保男
- ◆議会広報常任委員会
- 委員長 坂本 豊彦
- 委員 岩淵 智幸
- 高崎 覺志

表紙の写真紹介



表紙の写真は、黒山の昔穴遺跡でカタクリの種を植栽する江刺家小学校の児童です。学校統合で今年が最後となりましたが、これまでの活動が花開き、同遺跡の国史跡指定というご褒美が届きました。(関連記事5頁)

vol.234 令和6年7月30日発行

発行/九戸村議会 編集/議会広報常任委員会

〒028-16502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内10-11-6
電話：0195(43)3326 FAX：0195(41)1005
E-mail: gikai@vil.kunohi.iwate.jp